

第1回いろは呑龍トンネル南幹線シールド工事の  
漏水対策に係る技術検討委員会 議事概要

|          |   |
|----------|---|
| 開催日時及び場所 | 平成30年2月19日（月）午後3時～<br>京都府流域下水道 乙訓ポンプ場   |
| 出席委員氏名   | <p>委員長 大西 有三（京都大学名誉教授）<br/>         委員 久保 和幸（国土交通省国土技術政策総合研究所<br/>         道路構造物研究部道路基盤研究室長）<br/>         委員 矢野 知宏（地方共同法人日本下水道事業団近畿・中国<br/>         総合事務所長）<br/>         （欠席）三村 衛 委員（京都大学大学院工学研究科教授）<br/>         （別途説明し、意見を受ける）</p>  |
| 議事概要     | <p>1 開会 [あいさつ（田嶋水環境対策課長）]</p> <p>2 議事</p> <p>（1）委員長選出について<br/>         大西有三 委員を選出</p> <p>（2）事故概要について（資料-1参照）<br/>         ・平成29年11月27日に発生した管渠内への漏水、土砂流入の状況、国道171号の道路陥没及び再凍結の状況等について説明</p> <p>（3）発生原因について<br/>         ・施工記録や現場状況から推定される原因について説明<br/>         （意見）<br/>         ・「接続部の北幹線側の下部の一部に開口部があったこと、接合部の止水対策が計画どおり施工されていないこと等の原因が複合して、漏水、土砂流入に繋がったと推定する」との事務局側の説明に対し、現時点では説明に矛盾はない<br/>         ・漏水の原因に至ったプロセスの分析をして対策を検討すること</p> <p>（4）対策工法について<br/>         ・発生原因から検討した調査方法、対策予定工法について説明<br/>         （意見）<br/>         ・「再凍結の凍土造成が完了した後、流入した土砂及び南幹線鋼製セグメントを撤去し、接続部を調査する」との事務局側の説明に対し、調査の各段階において原因確認されたい<br/>         ・対策予定工法の方針については、現時点では問題ない<br/>         ・構造物の変位の状況を確認し、原因がわかりやすいように記録を残すこと</p> |